

植調試験地だより

雑感 まだまだ、ひよこ、家の前の試験田に毎日出勤。

公益財団法人 日本植物調節剤研究協会 福井試験地 主任 山瀬孝一

試験圃は家の前なので、「おはよう」代わりに朝起きて一回り。水はあるか。ひえの大きさはどうか。稲の葉令は。など、こまめに管理しています。



肩まで生育した転作 WCS 稲

土地条件

試験地は福井県の標高 230 m、盆地の山麓にあり雪は 2m くらい降ります。

汽車の便は悪く、福井市まで車で 1 時間。東京には米原経由で占めて 5 時間。

試験田の土質は植壇土、大区画圃場にパイプラインが整備されています。

自作地は 5 枚で、うち石盤で耕土が 15 cm と作業しやすい 70 a を試験田にしています。

山の緑が深く、空は青く、高台にある試験地から田園や市街地が見渡せます。

飲み水は湧水で、風呂は”ぬるっ”と硫黄泉感覚です。

試験農薬の散布は 2 人で

除草剤の持っている能力を 100% 発揮させるのが私の仕事です。

田を均平にする。田植 3 日前に代掻きをする。除草剤散布前に水を 5 センチ張る。

土留めを再検査する。農薬散布後は U パイプを立てる等気を配っています。

処理日の前日に処理区のラベルを横むきにし準備にかかります。

図面と処理区の農薬を家内が持ち、私が農薬を散布します。2 人でチェックしながら農薬散布、雑草発生活長、生育調査をします。1 人での農薬散布は間違いが多くやりません。

疎そうな私の欠点を補ってくれる妻に感謝しています。

農業改良普及員と我が家の米づくり

県庁生活のほとんどを稲の普及員で作見、座談会、試験田設置で過ごしました。

土日での稲作作業を継続をするため、稲作技術を磨き、機械を駆使し、改良を重ねてきました。

育苗ハウスの自動灌水、自動換気装置が自慢で典型的な例です。

そんな目で稲を見、研鑽努力。経験した技術の蓄えが自分を支えています。

2 年間白黒の牛を飼う牧場に勤務、そこでの経験は稲醗酵粗飼料 WCS 生産に生かしています。

また、2年間の発生予察は試験研究の方と病害虫の調査をし、試験場を知ることができました。

今また、蓄積された米づくりの経験と技術・機械・土地を植調に有効利用しています。

あなたは大学も農業、勤め先も農業、家業も農業、うらやましい、といわれます。

100%自己完結の米づくり

除草剤は米作りにとって、なくてはならない、便利な農薬ですが、多くの米作り作業の中の1作業にすぎません。

米作りには多くの機械、土地、作業技術、経験と知識、資金、経営能力が必要です。

1つの技術は失敗し反省、改善の繰り返しの上にて出来上がっています。

育苗技術、田の均平技術、田植技術（植付本数、深さ、フィットそして直進、肥料、株数）はお手のものです。これで米づくりは80%できたも同然、後は時間の経過を待つのみです。

近年、育苗から刈取り、乾燥、出荷までする農家は専業農家でも非常に少なく、まして兼業農家では営農指導員、普及員とか、まれな稲担当者だけでしょう。

育苗→栽培→乾燥→出荷 100%自己完結まさに、百性をやっています。

多くの機械、土地、建物を使うのですが利子に値する儲けすらありません。

標高300mの高い水田で作ったコシヒカリの味には劣りますが、自分で作ったおいしいイクヒカ리를食べています。



思ったよりよくできた波板等保管庫



試験田の畔に芝桜 1000 株植付



手取りしたホタルイの山



田の草取り（ホタルイ）

除草剤の有り難さと、みじめさ

四つんばいになって、夫婦2人が草丈40～50 cmのホタルイ取りに15 a、6日もかかっている。

草取の光景は珍しいですが、田植同時散布の除草剤が効かないところなのです。

毎年、どこかで、こんな田を見る。田植え後の掛け流しか、雨が降りオーバーフローしたのか。

除草剤散布後の水管理の大切さをしみじみ感じます。

生えてきたら、ジャンボ剤、フロアブル剤もあるし粒剤なら散粒機でまけばすぐ済むのに、人任せにするため適期を逃してしまう。都合の良いときや、自分に不利益な時は黙っているが、体を張って仕事となる不満が噴出・・・。

人にたよろうとする生産、プール体制の弱点がもろにでてくる。自分で技術を積み上げよう、未然に問題を克服しようとする意識がないのが最大の原因です。

集落営農組織づくりと運営の難しさ

3集落共同で稲35 ha、WCS 20 haの作業をしています。

普及員であったため組織の設立から経理、運営をやっています。

1 haの田に基盤整備され、用水はパイプラインになり、基幹3作業は集落組織が作業し苗と乾燥調整はJAに依頼している米作りです。非常に省力化されました。

しかしながら生産組織になってから凸凹の代掻き作業、欠株の多い田植え作業、補植はしない。溝きりはしない。ヒエは生えてもとらない。これでは生産性があがるはずがありません。

畦の上から田を見ているので、雑草の生えにも気がつかず、問題があると組織やオペレーターへのせいにする。

つまり生産組織の本来の目的や基盤整備の目的である「儲かる農業」や「担い手の育成」とは全く逆方向に進んでいるのです。

今まで、各個人で養ってきた機械作業技術、栽培技術はオペレーターに取って代わられ、若い人は他産業の仕事一辺倒に傾注し、農業に関心を持つ機会も奪われています。

プール生産方式の悪い面ばかりが目につき、集落の農地は木が生える荒地でないに過ぎません。

農村に住んで、車で通って寝に帰ってくる賃金稼ぎの労働者が一般的な現状です。

TPPより以前に生活構造の変化が既に日本の米づくり農業を崩壊しているのです。



生産組合による田植



除草剤散布は田植同時のみ

試験田を引き受けて

齊藤一男先輩(上司)から、「米作りは農地がある限り生涯やっていかななくてはならん。植調の試験田をしながら農業をやっていくのも、いいぞ!」がきっかけでした。

1年目は10aで試しにA1, A2, A3を取り混ぜ、足場づくり、波板の張り方、雑草の播き方ラベルたて、農薬のまき方を田植当日、齊藤一男さん、植調の橋本仁一さんに現地指導を受けました。

もちろん、研究所での新人研修を受け概略は理解してましたが、連続性がありませんでした。

波板、ヒエの種子、ラベル、Uパイプ、計量器は齊藤さんからいただきました。

成績の取りまとめは濱村謙史朗さんの指導を受けました。

2年目は足場の資材不足で中規模4剤を齊藤さんをお願いしました。

足場のブロックや足場板を1輪車で順送りに入れる大変な作業を経験しました。

ウリカワ、ミズガヤツリの球根は前年度の田から雪解け直後の4月5日以降に掘り出しました。

3年目の今年はトラクターのバケットに足場ブロック15個と足場板10枚を積んで妻に運転させて、私が敷設して、2日で6通路できました。

たて波板は田植機に波板入機をセットし1日で敷設、田植え3日前幅2mの波板の中をトラクターのロータリーに自作のならし板1.9mをつけて最後の均平をしました。

田植当日、営農指導員7人+親戚5人+JAの友人5人が横波板、土止め板、割棒入れ、雑草まきを手伝ってくれました。

やって見て、自分の技量不足を知りました

農地・水・排水の確保、移植稲の栽培技術、農業機械の所有と操作技術があり、稲の知識も十分で虫、病気、除草剤展示圃経験もあり、除草剤の試験は簡単にできると考えていましたが、試験田を運営していくうえで慣行栽培とは違う体系的な農作業のやり方、管理の仕方があことを知りました。



田植当日の横波板入れ作業

石の上にも3年と考えていましたが早計で、不足している技術が多くありました。

- 1, 成績のとりまとめ能力不足
- 2, ウリカワ, セリ, ホタルイの増殖技術不足
- 3, 直播の栽培技術不足(発芽不ぞろいで再試験)
- 4, 試験農薬の成分特性が分かってない
- 5, 藻の調査・除去法, 非常時のUパイプの使い方など
- 6, 散布7日前には農薬の計量を事前しておく(試験農薬の間違いを事前に解消できる)
- 7, 試験圃場内は小さく, 機械の使い方や小さな道具がある。
- 8, 大雨時の排水対策不足
- 9, 藻の除去対策は金網ですくう方法しか知らない
- 10, U字パイプは20ミリのパイプにしたらゴミ, 藻が詰まらない(以前は16ミリでした)

セリ, どこにでも生えています・・・

私の家の前には湧水するピオトープがあり昨年の11月, セリの一団を見つけました。

試験田に使おうと思い, そーとしておきました, 3月末に雪の上を歩いて見に行くと, 影も形もありません。

え, え一目を疑いました。今年もだめか・・・。

4月20日, 3回目の初任者研修会に参加, セリをコンテナに寄せハウスで栽培しているのを見修しました。

程なく, 同じ市内の妻の兄から「セリが排水溝に生えていたので残しておいた, 取りに來い」深さ1m余りの側溝のU字ブロックの隙間に旺盛に育っていました。5つのコンテナに入れ育苗ハウスに置くと草丈が伸び5月19日の田植時に, 1区に1本のセリを試験に供することができ

ました。

偶然でしたが, 「セリ」を育てる技術を体得しました。

ミズガヤツリは酸素が大好きな草です

湛水状態で育つ雑草ミズガヤツリと考えていました。

育苗ハウス内で球根の掘り出し作業をして, こぼれた根が勢いよく葉を出し育っています。

ハウス内は畑状態で暖かく, 適度な灌水でお湿りがあり育つのです。

大事にコンテナに水を張り横置した塊茎からは1つも芽が出ませんでした。

やむなくハウスで育ったものを増殖圃に植え付けしました。

ミズガヤツリとは名前が悪い, ハタガヤツリが似合う。

ウリカワの増殖ができなければ1人前じゃない

「ウリカワを探していると聞いて持ってきました。営農指導員に見てもらったので間違いありません。」

大きく肥えた100本を肥料袋に入れて, JA監査室の友人が自分の田から持って来てくれました。

早速, コンテナに植え, 増殖しました。試験田内の増殖圃の球根は見つからず, 結局H24の球根1200個は友人の力で賄うことができました。

ウリカワの増殖が未だできません。

北陸地域の間中検討会

唯一, 他県の農試を視察する機会です, 地域特性や新しい知識が得られます。

毎年多くのメーカーさんとも知り合い, 歓談もできます。待ち遠しい機会です。

今年は佐渡で, 行ったことがなく, 強風・砂埃



イチゴ狩りに満足の笑顔

土で葉害が出やすい試験地のイメージだけでした。

圃場を見て、しっかり除草剤は効いている、葉害はソフトでそれなりに、と感じました。

佐渡の試験地を見て、自分の試験田と比較し、安心すると同時に、大変参考になりました。

ジェットfoilは新幹線のような乗り心地、時速70km余で船の感覚ではありません。65分で佐渡の両津港に到着。

バスで試験場へ向かうのですが、どこまでも、どこまでも水田で「ここは島」でないの？。でっかいぞ！

水稻10000haは福井の坂井平野と同じでした。

夜は鯛、岩がき、サザエ等とにかく新鮮で豊富、お酒「雪中」これがおいしく、想いで深い情報交換会になりました。

部屋を共にした富山の今井さん、石川の中谷さんに気楽に試験田について分からないことをお聞きしました。

鶏ぐらゐの朱鷺を目にして、台風通過でジェットfoil欠航の心配もありましたが無事帰りました。

新潟の皆さん、お世話になりました。

余暇は夢農業に向け、すこしずつ前進

- 1, 試験田の畦にシートを張り、草が生えないように、見に来てくれた人の足元が泥や、雨がつかないようにしたい
- 2, 畦に美しい花が咲く農村の風景づくりに向け、芝桜、アジサイ、ラベンダーの育苗、栽植。
- 3, 果実を植え、子供のころに食べたイチジク、柿、くわの実、の味・満腹感を取り戻したい。
- 4, イチゴ農園とか体験できる農園をやってみたい。

畦シートは雪がすべり氷河の浸食に似た現象であじさいが消え、いちじくは裂けました。

山下ろしの強風で畦シートが二度も飛ばされ、波板敷設で忙しい中、張り直しを余儀なくされました。

芝桜とかの苗を作り植え、草花の株でシートを抑えるべきと考えました。

ぼちぼちですが、今までできず温めてきたこと、したかったことの夢実現に向け努力しています。

イチゴ畑で孫が「赤いのがいっぱい、甘い」とさわいでいっている姿は何とも言えないしみみな光景です。

この後電気策の撤去、ひよどり防鳥網の撤去、ハクピシンの罫・網の撤去、イチゴの残渣始末、

代掻き、WCSを田植え、育苗ハウスのビニール撤去と長かった春作業も6月17日でやっと終了しました。

途中でできなくなったら、どうしよう：問題点
1, 60歳すんでの仕事なので、いつ怪我、病気で試験途中で継続できなくても不思議でなく、その対応策がない。
目に見えない口に言えない試験田運営の必須

技術の伝承ができない。

- 2, 各県に「1人ぼっち」の隔離状態にあり連絡協調できず、独善的になってしまう。
 - 3, 6月の中間検討会は妻に水管理を任せていますが、大雨がないか大変心配です。
- 植調協会の人は皆、学歴が高く、まじめで一生涯懸命に仕事に傾注され質実剛健です。
私も会員の名に恥じないよう「できることはする」の敢闘精神でやっています。

新登場!!
ホクコー
エーワン

1キロ粒剤・フロアブル・ジャンボ

雑草を白く枯らす!
ノビエを長く抑える!

2成分で雑草撃退!

水稻用一発処理除草剤

強力な2つの成分

新規成分 雑草を白く枯らす テフリルトリオン (AVH-301)	ノビエを長く抑える オキサジクロメホン (100)
--	--

SU抵抗性雑草・
特殊雑草に高い効果!






取扱 **全農** 製造

高橋登録 第4702318号

北興化学工業株式会社

エーワンは北興化学工業(株)の登録商標